

KODOMOSHIP

～ こどもが「真ん中」の保育 ～

1. 育みたいこどもの姿

こどもたちが地球に生きる一市民として、身近な環境に自ら興味・関心を持ち、ワクワクする毎日を仲間とともに創っていくための土台となる力を育みます。

主に重要となる力

- 自分で考え、選び、行動する力（主体性）
- 仲間を認め、協力し合う力（協同性）
- 興味のあることに対して粘り強く取り組む力（探究心）

環境問題や超高齢化社会、グローバル化、AIの発展など、私たちを取り巻く環境は未来に向けてめまぐるしく変化しています。国連が定めたSDGs（Sustainable Development Goals）に向け、持続可能な発展をしていくことが企業をはじめ社会全体として強く求められています。こどもたちが柔軟に物事を捉えたり、あきらめずに取り組むなど、新たなモノ・コトを生み出すといった社会をよりよく生きる力を育んでいきます。

2. 大切にしたい思い

- 安全で安心できる「もうひとつのおうち」を実現します。

おうちのように安心できて、自分らしくいられる場所でありたいという思いを込めています。こどもの人権を尊重し、気持ちに寄り添い、信頼関係を育みながら、安全・安心を築きます。

- 社会とともに「こどもとつくる保育」を実践します。

こどもを真ん中に日々の生活をともにつくっていくという思いを込めています。こどもに備わっている自ら育つ力を尊重し、保護者や保育スタッフ、そして企業や地域とともに、こども一人ひとりの発達、興味・関心に寄り添った保育を展開します。

3. 保育の中で行うこと

①「もうひとつのおうち」の実現

- こどもとおとなが信頼関係を育み、おとなが連携を密にすることで、情緒の安定を図ります。

こどもとおとなの信頼関係をもとに、こどもが安心して一步を踏み出し、いつでも戻ることができるよう、安全基地になりこどもの発達を支えます。

- 安全・安心に活動できるように、施設の保育環境を整えます。

保育環境は、こどもが関わる「人」・「モノ」・「空間」・「時間」で構成されています。こどもにとっての安全・安心とは何かを総合的に考え、施設の環境を整えます。

②「こどもとつくる保育」の実践

- 主体性を尊重し、何をしたいのかを観察しながら、やりたいことの追究を手伝います。

こどものやりたいことを尊重し、こどもを主役とした保育を行います。こどものやりたいことや、できない部分をサポートし、こども自身が「自分でやりたい」「自分でできた」を感じられるようにしていくことを大切にしていきます。

- 一人ひとりの発達や興味・関心をとらえ、保育スタッフみんなで保育を行います。

一人ひとりの現時点での発達や興味・関心の状況を多面的にとらえ、活動を展開します。ひとりで保育するのではなく、みんなでこどもを見守るという姿勢で保育に携わっていきます。

- 日々の保育の振り返りと改善を行い、根拠をもって、活動を展開します。

計画、実践、反省、改善、そしてまた計画というサイクルで保育を行っていきます。実践して、振り返り、よりよくしていくことで、連続性のある保育を展開します。

- 企業資産を活用しながら、興味・関心を引き出し、遊びの幅をひろげます。

企業が持つ技術やノウハウを活用して、こどもが五感を使って体感できる遊びをつくり、日々の保育へとつなげていきます。